

2025 年 11 月 6 日

報道関係各位

11 月 14 日（金）は World Diabetes Day

ダイアベティス（糖尿病）の正しい知識の普及を願い、
全国 270 ヶ所でブルーライトアップを実施

World Diabetes Day 実行委員会（一般社団法人日本糖尿病学会・JADEC（公益社団法人日本糖尿病協会）は、国際的なダイアベティス（糖尿病）の疾患啓発の日である 11 月 14 日の「World Diabetes Day（ワールドダイアベティスデイ／以下、WDD）」にちなみ、日本国内の代表的な建造物をシンボルカラーのブルーにライトアップします。また、この日を含む 11 月 9 日（日）～15 日（土）の 1 週間を「ダイアベティスウィーク」として、各地で糖尿病の正しい知識を伝える講演会や街頭イベントを行います。

■ブルーライトアップ

2006 年に糖尿病の脅威に関する国連決議（UN Resolution61/225）が採択されると、WDD を周知する目的で、世界各国で著名な建造物をブルーにライトアップするイベントが始まりました。日本でも、2007 年の東京タワーのブルーライトアップを皮切りに、全国に活動が拡がり、2019 年にはほぼすべての都道府県で 11 月 14 日のブルーライトアップと市民向けの啓発イベントが行われました。

本年は、270 ヶ所（11/5 現在）の著名な建造物や糖尿病診療を行う医療機関等が青い光に彩られます。



神戸ポートタワー

■WDD・ダイアベティスウィークのテーマ

～みんなで正しく理解しよう「ダイアベティス」～

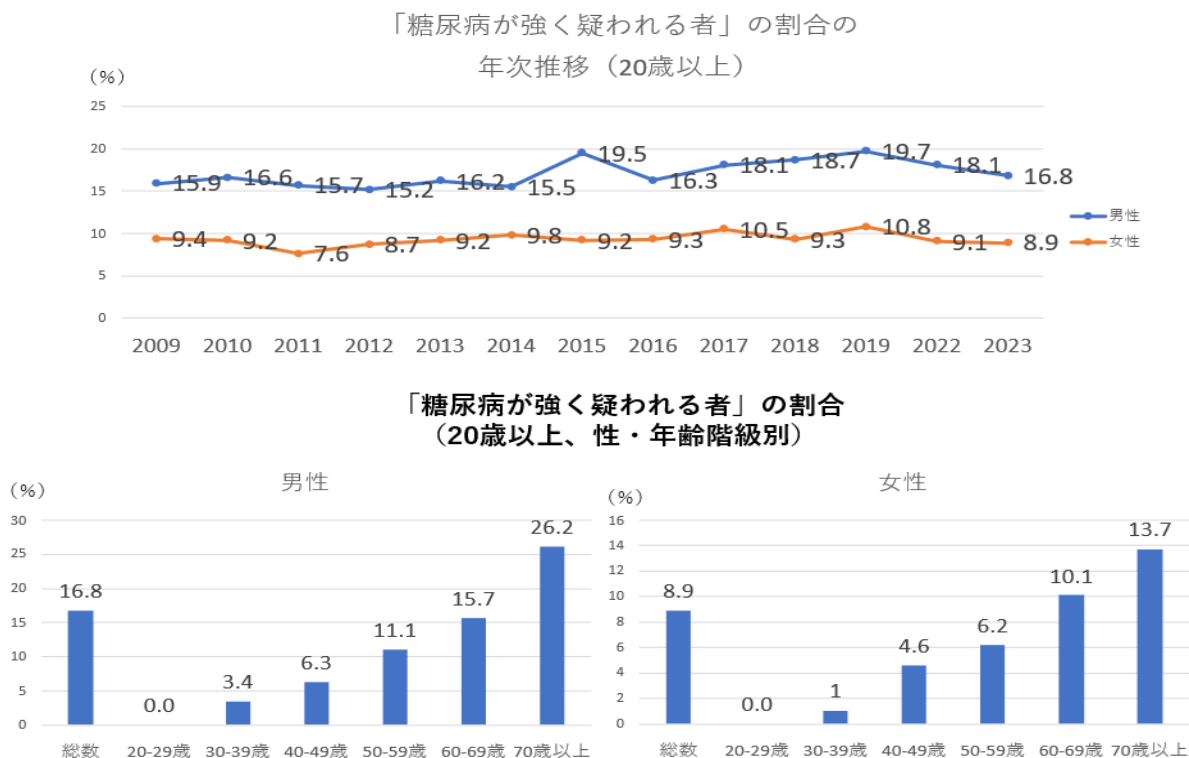
糖尿病には様々な病態があり、発症原因は人それぞれです。しかし、「食べ過ぎ」「乱れた生活習慣」が原因などといった不正確な理解が社会に根強く残り、そこから偏見が生まれています。そして、それにより糖尿病であることを隠したり、治療を中断してしまう人がいます。また、糖尿病を理由に、就職や結婚、生命保険の加入等で不利益を被る現実もあります。

誰でも発症の可能性のある病気だからこそ、正しく知って適切に予防や治療を継続することが大切です。WDD を契機に、糖尿病とはどのような疾患なのかを改めて考える機会が広がることを願います。



■日本の糖尿病の概況

2023 年（令和 5 年）国民健康・栄養調査（厚生労働省）によると、「糖尿病が強く疑われる人」の割合は、男性 16.8%、女性 8.9%でした。ここ 10 年間でみると、男女とも有意な増減はみられず、年齢階級別にみると、年齢が上がるにつれ、その割合が高くなっています。



※「糖尿病が強く疑われる者」の判定

ヘモグロビン A1c の測定値があり、国民健康栄養調査の身体状況調査票の問診において「これまでに医療機関や検診で糖尿病といわれたことの有無」「現在、糖尿病治療の有無」及び「現在の状況」が有効回答である者のうち、ヘモグロビン A1c（NGSP 値）が 6.5%以上または「糖尿病治療の有無」に「有」と回答した者

出典：令和 5 年国民健康・栄養調査結果の概要（厚生労働省）

■世界の糖尿病の現況

- 2024 年、世界の成人（20-79 歳）糖尿病人口は **5 億 8,900 万人**。9 人に 1 人の割合です。中でも、アジア・太平洋地区は、**2 億 1,540 万人**と世界で最多となっています。
- 糖尿病のある成人の 4 人に 1 人（**1 億 5,800 万人**）は 65 歳以上です。
- 6 億 3,500 万人**の成人が耐糖能障害の状態、2 型糖尿病のハイリスク群となります。
- 糖尿病のある人のうち、推定 **2 億 5,200 万人**は未受診の状態です。
- 2024 年、糖尿病は **340 万人**以上の死亡の原因となっています。これは、世界の全死亡原因の 9.3%に相当し、9 秒に 1 人の割合です。
- 1 型糖尿病のある人の数は推定 **910 万人**で、その 69%は成人です。
- 成人の糖尿病人口は、2050 年には **8 億 5,300 万人**に増加すると予測されています。
- 2024 年、世界の糖尿病関連支出は、**1 兆 150 億 USD** に上りました。これは、世界の医療費の 12%に相当します。2050 年までには、1 兆 4,300 億 USD に達すると推定されています。

■関連ウェブサイト

World Diabetes Day 実行委員会 <https://www.wddj.jp/>（ブルーライトアップ／イベント一覧掲載）

JADEC（日本糖尿病協会） <https://www.nittokyo.or.jp/>

日本糖尿病学会 <http://www.jds.or.jp/>

日本糖尿病対策推進会議 <https://www.med.or.jp/doctor/diabetes/>

厚生労働省 令和5年「国民健康・栄養調査」の結果

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_45540.html

IDF <http://www.idf.org/>

IDF Diabetes Atlas <http://www.diabetesatlas.org>

★World Diabetes Day（11月14日）の由来

1921年に糖尿病治療に必要なインスリンを発見したフレデリック・バンティング博士（カナダ／1891-1941）の誕生日。シンボルカラーのブルーは、国連色とどこまでも広がる青空の色から採用されました。2006年12月20日、国連総会において糖尿病の脅威に関する決議が採択され、（UN Resolution 61/225／United Nation）公式な国連デーとなりました。

★ブルーサークルとは

World Diabetes Dayのキャンペーンには、青い丸をモチーフにした「ブルーサークル」が用いられます。これは、糖尿病に関する国連決議が採択された翌年2007年から使われるシンボルマークです。どこまでも続く空を表す「ブルー」と、団結を表す「輪」をデザインし、”Unite for Diabetes”（糖尿病との闘いのため団結せよ）というキャッチフレーズとともに、世界中で糖尿病抑制に向けたキャンペーンを推進しています。

★World Diabetes Day 実行委員会とは

2006年の国連決議を受けて、日本国内の糖尿病啓発を促進するためにJADEC（日本糖尿病協会）と日本糖尿病学会により設立された任意団体です。World Diabetes Dayに関する国内の啓発活動を統括し、各地のブルーライトアップや地域密着型イベントを支援しています。

★IDFとは

International Diabetes Federation（IDF／国際糖尿病連合）は、170カ国・地域から230以上の糖尿病関連団体が参加する組織で、1950年から糖尿病のある人を支援する活動を展開しています。2006年の国連決議採択では、世界保健機関（WHO）とともに主導的な役割を果たしました。日本糖尿病学会・JADEC（日本糖尿病協会）もIDFの正会員です。

◇国内ブルーライトアップ、イベントに関するお問い合わせ先◇

JADEC（公益社団法人日本糖尿病協会） 事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-2-4 8F

TEL：03-3514-1721 FAX：03-3514-1725

E-mail：office@nittokyo.or.jp